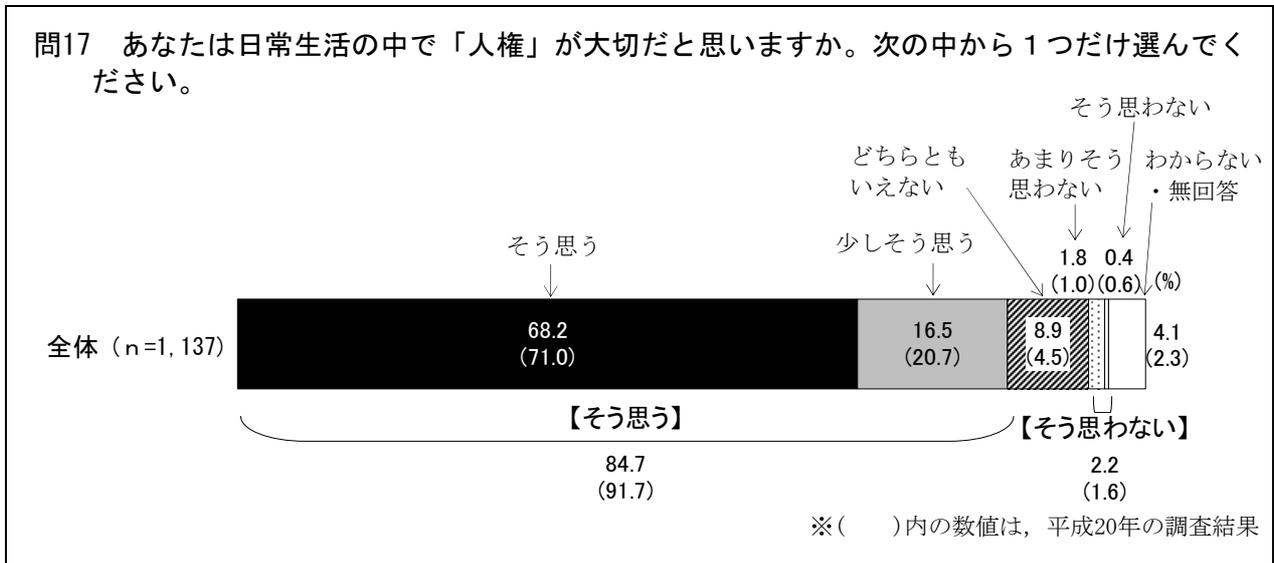


VIII 人権意識

1. 「人権」の大切さについて

—【そう思う】が8割台半ば—



「人権」が大切だと思うかについては、「そう思う」(68.2%)と「少しそう思う」(16.5%)を合わせた【そう思う】(84.7%)が8割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(1.8%)と「そう思わない」(0.4%)を合わせた【そう思わない】(2.2%)は約2%となっている。

前回調査と比べると、【そう思う】は、7ポイント減少している。

—【そう思う】は男女ともに50代で9割台—

地域別でみると、【そう思う】は、県北(87.4%)と鹿行(88.5%)で約9割と高く、すべての地域で8割台となっている。

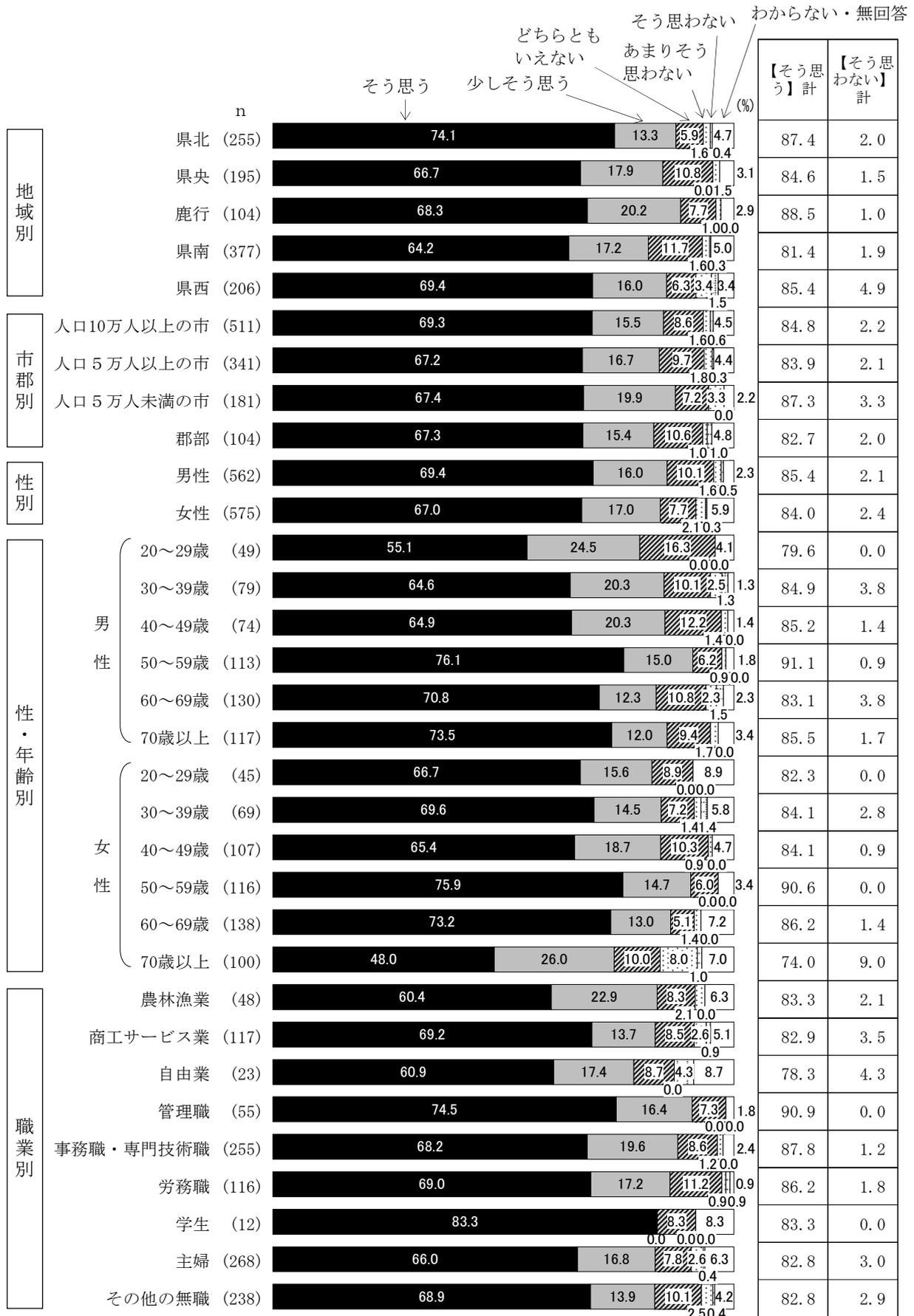
市郡別でみると、【そう思う】は、人口5万人未満の市(87.3%)で約9割と最も高く、すべての層で8割台となっている。

性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、【そう思う】は、男性の50代(91.1%)と女性の50代(90.6%)で9割台と高くなっている。

職業別でみると、【そう思う】は、管理職(90.9%)と事務職・専門技術職(87.8%)で約9割と高く、農林漁業(83.3%)と労務職(86.2%)で8割台半ばとなっている。

図Ⅷ 17-1 「人権」の大切さについて（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）

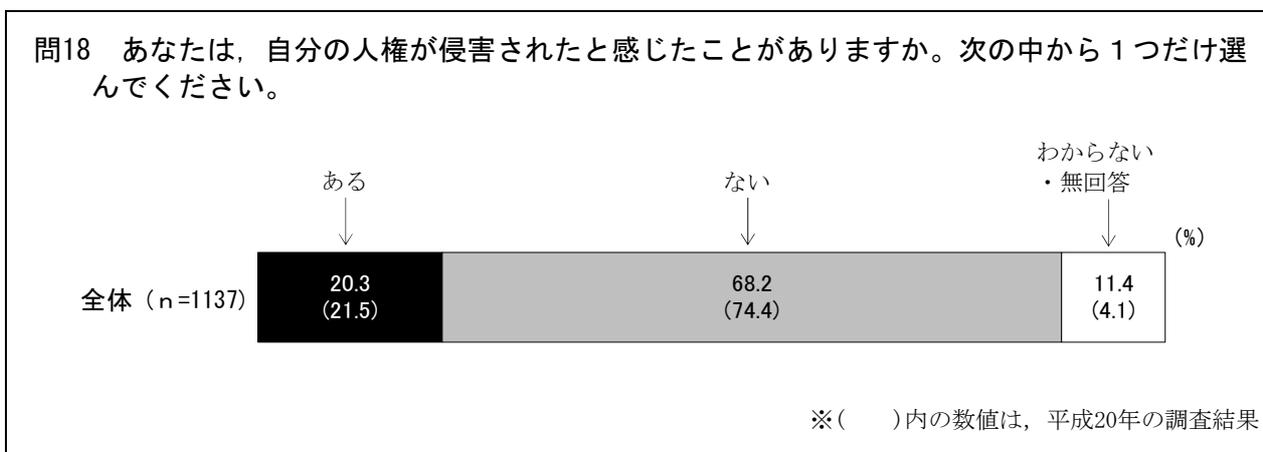


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

2. 人権が侵害された経験

(1) 人権が侵害された経験の有無

—「ある」が約2割—



自分の人権が侵害されたと感じることが「ある」(20.3%)は、約2割となっている。一方、「ない」(68.2%)は約7割となっている。

前回調査と比べると、「ない」が約6ポイント減少している。

—「ある」は女性の40代で約3割—

地域別でみると、「ある」は、鹿行(27.9%)で約3割と最も高く、県央(23.6%)で2割台半ばとなっている。

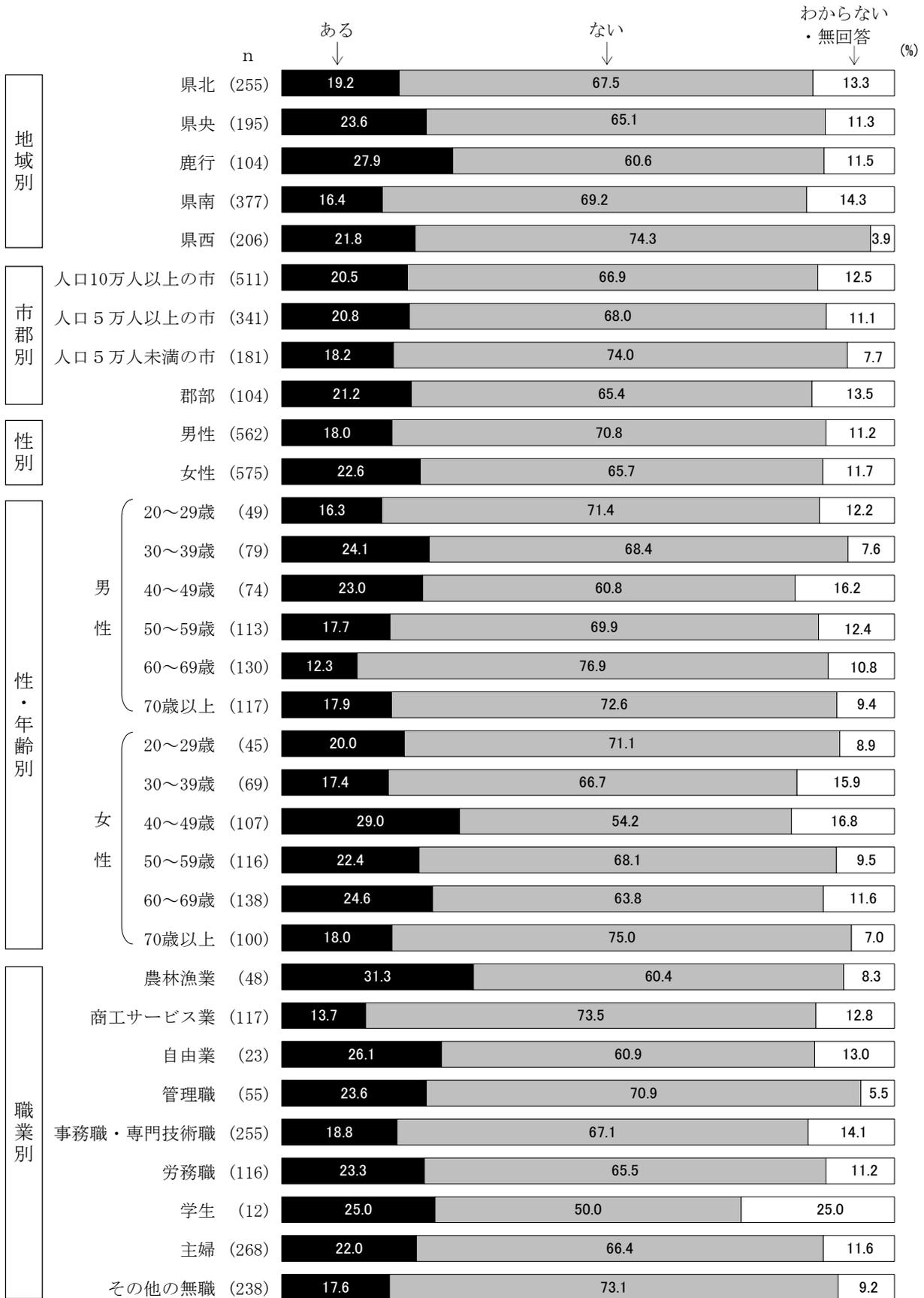
市郡別でみると、「ある」は、人口5万人未満の市(18.2%)以外のすべての層で2割台となっている。

性別でみると、「ある」は、女性(22.6%)が男性(18.0%)よりも約5ポイント高くなっている。一方、「ない」は、男性(70.8%)が女性(65.7%)よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「ある」は、男性では30代(24.1%)と40代(23.0%)で2割台半ばと高くなっている。女性では40代(29.0%)で約3割と最も高く、20代(20.0%)、50代(22.4%)、60代(24.6%)で2割台となっている。

職業別でみると、「ある」は、農林漁業(31.3%)で3割を超えて最も高く、管理職(23.6%)、労務職(23.3%)、主婦(22.0%)で2割台となっている。

図Ⅷ 18-1 人権が侵害された経験の有無（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



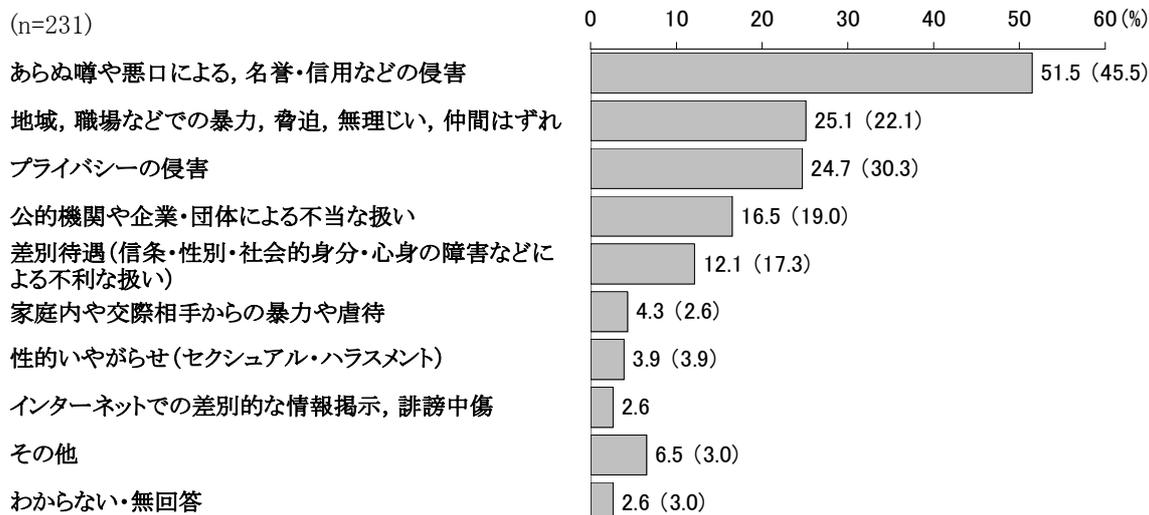
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 人権が侵害されたと感じた状況

—「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が5割を超えている—

(問18で、「1. ある」と回答した方のみ)

問18-1 それはどのような場合ですか。差し支えがなければお聞かせください。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



※()内の数値は、平成20年の調査結果

※「家庭内や交際相手からの暴力や虐待」は、平成20年は「家庭内での暴力や虐待」、「性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)」は、平成20年は「セクシュアル・ハラスメント」、「インターネットでの差別的な情報掲示、誹謗中傷」は今回調査から追加

自分の人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した方に、その状況を聞いたところ、「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」(51.5%)が5割を超えて最も高く、次いで「地域、職場などでの暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」(25.1%)、「プライバシーの侵害」(24.7%)が2割台半ば、「公的機関や企業・団体による不当な扱い」(16.5%)、「差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い)」(12.1%)が1割台で続いている。

前回調査と比べると、「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が6ポイント、「地域、職場などでの暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」が3ポイント増加している。一方、「プライバシーの侵害」が約6ポイント、「差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い)」が約5ポイント、「公的機関や企業・団体による不当な扱い」が約3ポイント減少している。

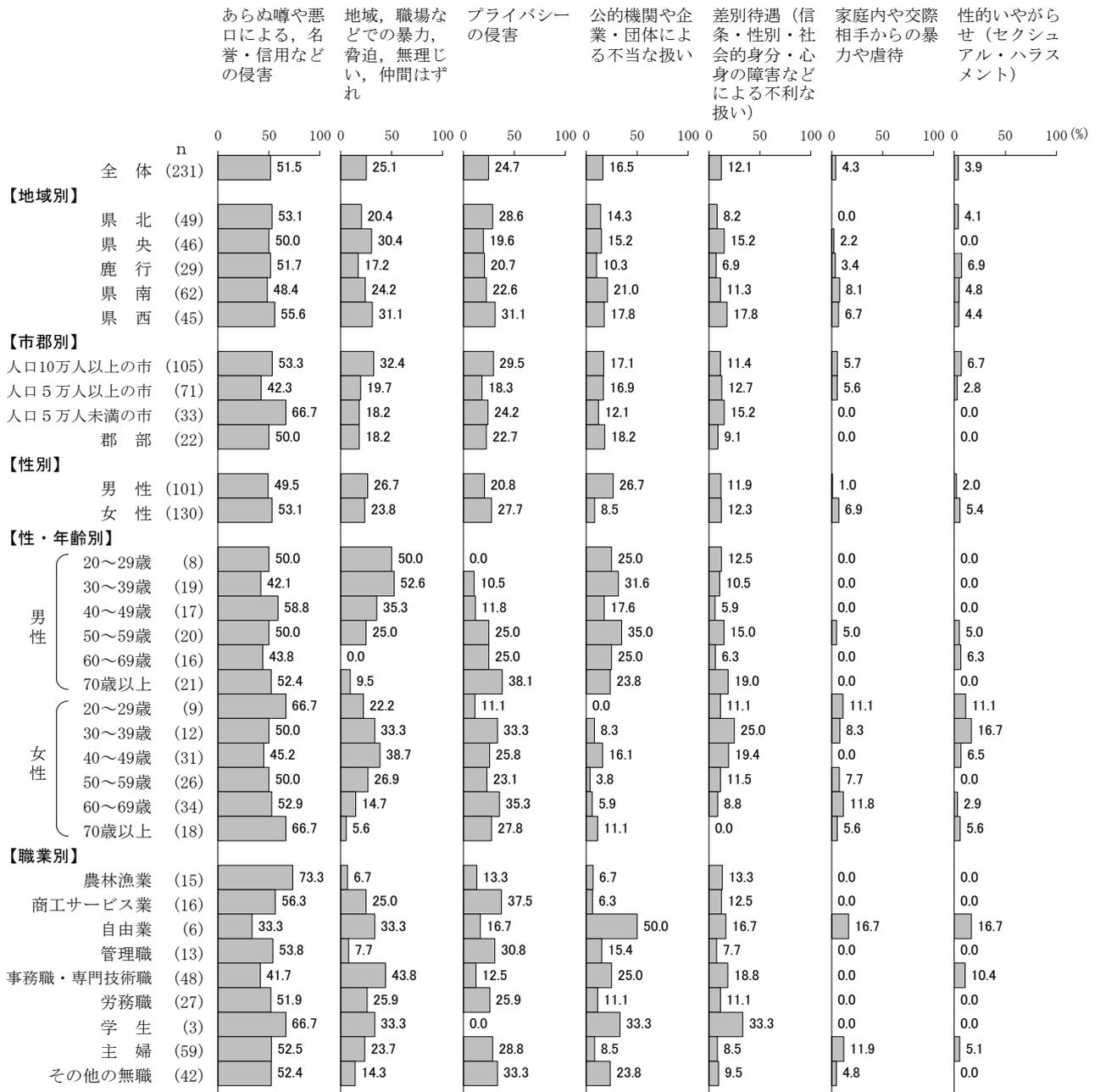
—「あらぬ噂や悪口による，名誉・信用などの侵害」は人口5万人未満の市で6割台半ば—

地域別でみると、「あらぬ噂や悪口による，名誉・信用などの侵害」は，県北（53.1%）と県西（55.6%）で5割台半ばと高くなっている。「地域，職場などでの暴力，脅迫，無理じい，仲間はずれ」は，県央（30.4%）と県西（31.1%）で3割台と高く，「プライバシーの侵害」でも県西（31.1%）は3割を超えている。

市郡別でみると，「あらぬ噂や悪口による，名誉・信用などの侵害」は，人口5万人未満の市（66.7%）で6割台半ばと最も高く，人口10万人以上の市（53.3%）で5割台半ばとなっている。「地域，職場などでの暴力，脅迫，無理じい，仲間はずれ」は，人口10万人以上の市（32.4%）で3割を超えて最も高く，「プライバシーの侵害」でも人口10万人以上の市（29.5%）で約3割と最も高くなっている。

性別でみると，「公的機関や企業・団体による不当な扱い」は男性（26.7%）が女性（8.5%）よりも約18ポイント，「地域，職場などでの暴力，脅迫，無理じい，仲間はずれ」は男性（26.7%）が女性（23.8%）よりも約3ポイント高くなっている。一方，「プライバシーの侵害」は女性（27.7%）が男性（20.8%）よりも約7ポイント，「家庭内や交際相手からの暴力や虐待」は女性（6.9%）が男性（1.0%）よりも約6ポイント高くなっている。このほか，「あらぬ噂や悪口による，名誉・信用などの侵害」は女性（53.1%）が男性（49.5%）よりも約4ポイント，「性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）」は女性（5.4%）が男性（2.0%）よりも約3ポイント高くなっている。

図Ⅷ 18-1-1 人権が侵害されたと感じた状況
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 鹿行, 郡部は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

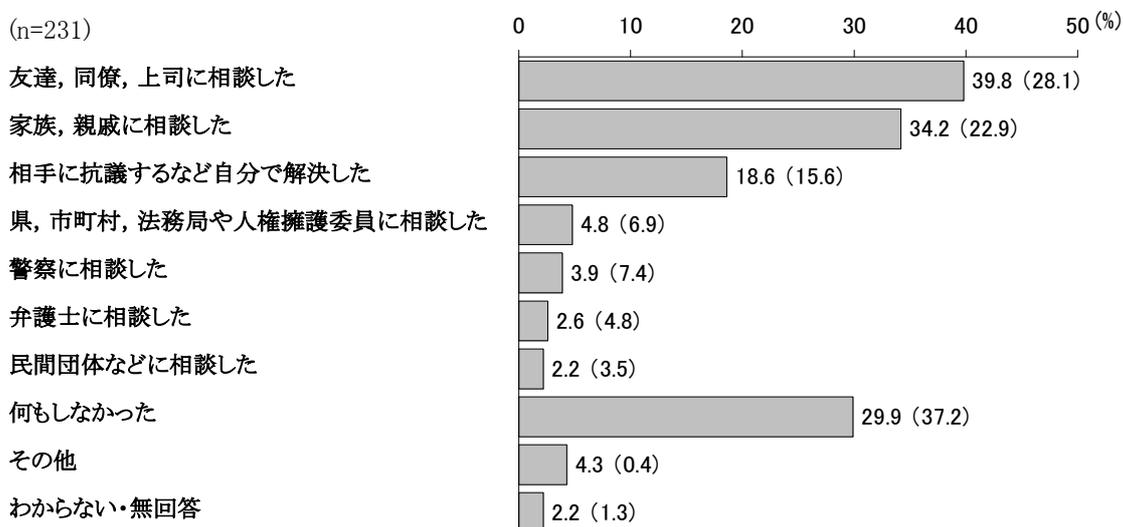
性・年齢別と職業別については, 回答人数が少ないものが多いので分析ではふれていない。

(3) 人権が侵害されたと感じたときの対応

—「友達、同僚、上司に相談した」が約4割—

(問18で、「1. ある」と回答した方のみ)

問18-2 そのとき、あなたはどうかされましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



※()内の数値は、平成20年の調査結果

自分の人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した方に、そのときの対応について聞いたところ、「友達、同僚、上司に相談した」(39.8%)が約4割で最も高く、次いで「家族、親戚に相談した」(34.2%)が3割台半ば、「相手に抗議するなど自分で解決した」(18.6%)が約2割で続いている。一方、「何もしなかった」(29.9%)が約3割となっている。

前回調査と比べると、「友達、同僚、上司に相談した」が約12ポイント、「家族、親戚に相談した」が約11ポイント、「相手に抗議するなど自分で解決した」が3ポイント増加している。一方、「何もしなかった」が約7ポイント、「警察に相談した」が約4ポイント減少している。

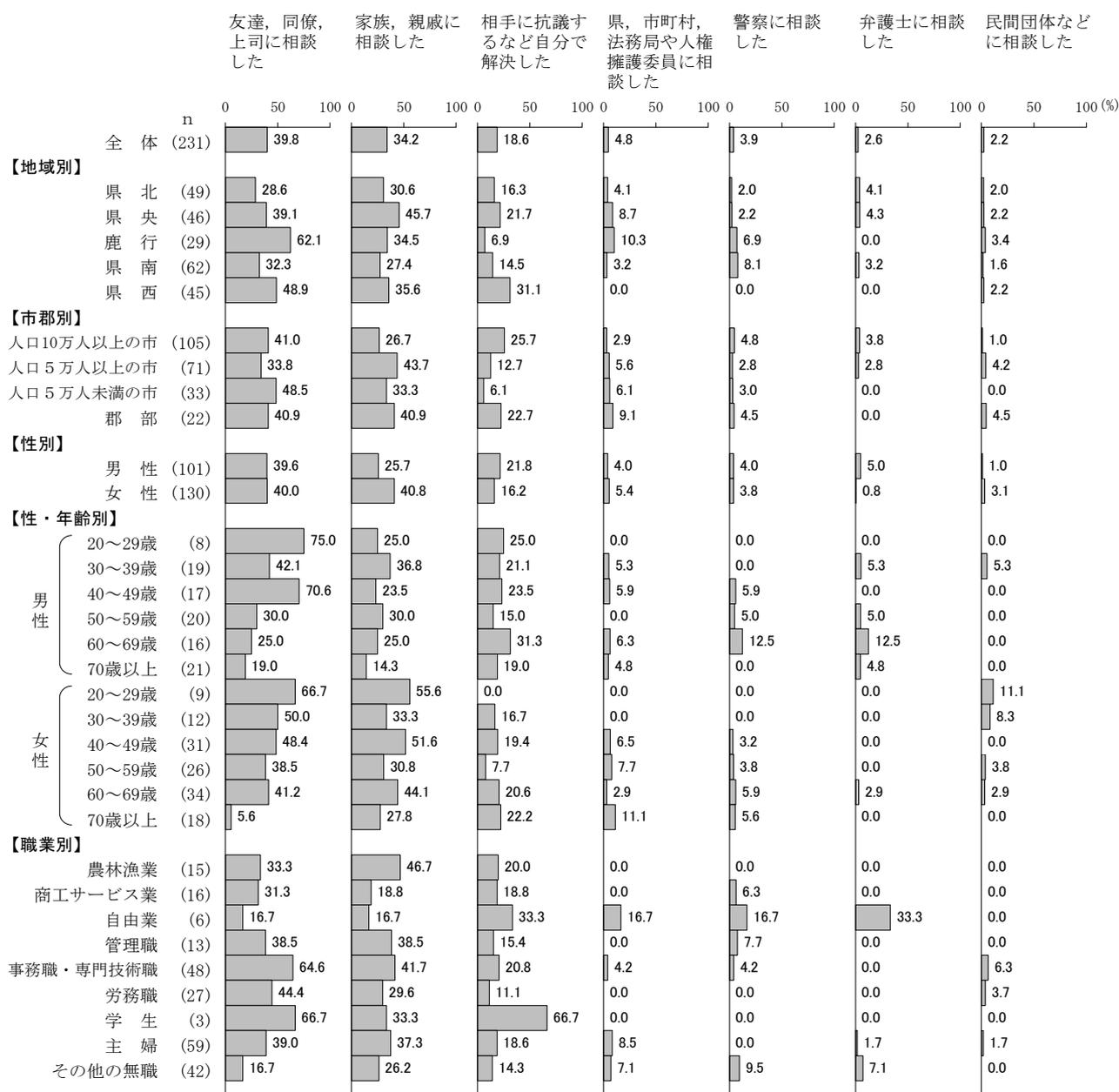
—「友達、同僚、上司に相談した」は県西と人口5万人未満の市で約5割—

地域別でみると、「友達、同僚、上司に相談した」は県西(48.9%)で約5割、「家族、親戚に相談した」は県央(45.7%)で4割台半ばと、それぞれ最も高くなっている。また、「相手に抗議するなど自分で解決した」でも、県西(31.1%)は3割を超えて最も高くなっている。

市郡別でみると、「友達、同僚、上司に相談した」は人口5万人未満の市(48.5%)で約5割、「家族、親戚に相談した」は人口5万人以上の市(43.7%)で4割台半ばと、それぞれ最も高くなっている。また、「相手に抗議するなど自分で解決した」は、人口10万人以上の市(25.7%)で2割台半ばとなっている。

性別でみると、「家族、親戚に相談した」は、女性(40.8%)が男性(25.7%)よりも約15ポイント高くなっている。一方、「相手に抗議するなど自分で解決した」は、男性(21.8%)が女性(16.2%)よりも約6ポイント高くなっている。

図Ⅷ 18-2-1 人権が侵害されたと感じたときの対応
(地域別、市郡別、性別、性・年齢別、職業別—上位7項目)



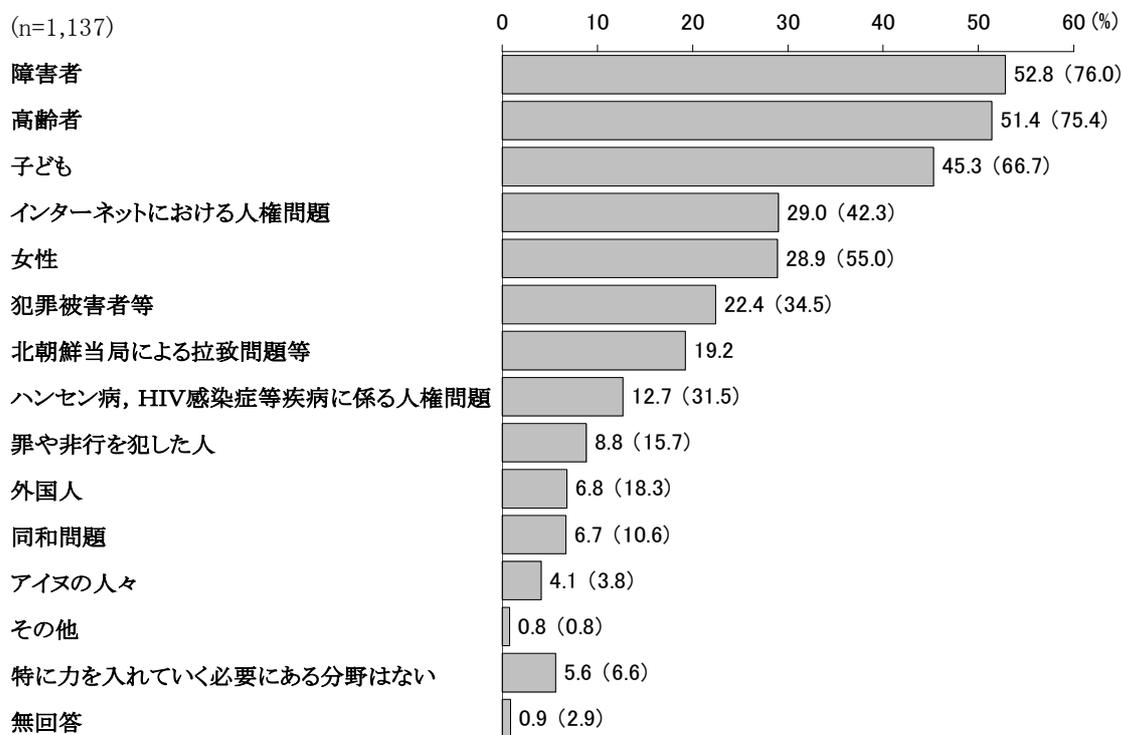
(注) 鹿行、郡部は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

性・年齢別と職業別については、回答人数が少ないものが多いので分析ではふれていない。

3. 今後、力を入れるべき人権の分野

—「障害者」と「高齢者」が5割を超えている—

問19 人権にはさまざまな分野がありますが、今後、どの分野に力を入れていくことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



※()内の数値は、平成20年の調査結果

※「北朝鮮当局による拉致問題等」は今回より追加

※「ハンセン病, HIV感染症等疾病に係る人権問題」は、平成20年は「HIV感染者・ハンセン病患者等」

今後、力を入れていくべき人権の分野としては、「障害者」(52.8%)と「高齢者」(51.4%)が5割を超えて高くなっている。次いで「子ども」(45.3%)が4割台半ば、「インターネットにおける人権問題」(29.0%)、「女性」(28.9%)、「犯罪被害者等」(22.4%)が2割台で続いている。

前回調査とは、回答できる個数が異なることから、比率ではなく順位についてふれることとする。「障害者」、「高齢者」、「子ども」の順位に変化はなく、「インターネットにおける人権問題」と「女性」の順位が入れ替わっている。

—「障害者」、「高齢者」、「子ども」が地域別、市郡別、性別、職業別のすべてで3位以内。しかし、男性の20代から30代と女性の50代では「インターネットにおける人権問題」が、女性の20代では「女性」が3位に入る—

地域別でみると、「障害者」か「高齢者」が、県北、県央、県南、県西で1位か2位となっているが、鹿行では「子ども」が2位となっている。

市郡別でみると、すべての層で「障害者」か「高齢者」が1位か2位となっており、「子ども」が3位となっている。

表Ⅷ 19-1 今後、力を入れるべき人権の分野（地域別、市郡別—上位5位）

（単位：％）

		n	1位	2位	3位	4位	5位
総数		1,137	障害者 52.8	高齢者 51.4	子ども 45.3	インターネットにおける人権問題 29.0	女性 28.9
【地域別】	県北	255	高齢者 46.7	障害者 46.3	子ども 45.9	インターネットにおける人権問題 30.2	女性 26.7
	県央	195	障害者 51.8	高齢者 49.2	子ども 39.5	犯罪被害者等 28.2	インターネットにおける人権問題 25.1
	鹿行	104	障害者 53.8	子ども 49.0	高齢者 44.2	女性 26.9	インターネットにおける人権問題 25.0
	県南	377	障害者 57.8	高齢者 53.1	子ども 44.6	インターネットにおける人権問題 32.9	女性 30.8
	県西	206	高齢者 59.7	障害者 51.9	子ども 49.5	女性 34.0	インターネットにおける人権問題 26.2
【市郡別】	人口10万人以上の市	511	障害者 53.4	高齢者 51.7	子ども 45.0	女性 29.9	インターネットにおける人権問題 29.0
	人口5万人以上の市	341	障害者 52.5	高齢者 49.9	子ども 46.0	インターネットにおける人権問題 30.2	女性 29.0
	人口5万人未満の市	181	高齢者 55.8	障害者 53.0	子ども 47.5	女性 29.3	インターネットにおける人権問題 28.2
	郡部	104	障害者 50.0	高齢者 47.1	子ども 40.4	インターネットにおける人権問題 26.9	女性 23.1

性別でみると、「障害者」と「高齢者」の順位が性によって1位と2位で入れ替わり、また、「インターネットにおける人権問題」と「女性」も順位が性によって4位と5位で入れ替わっている。

なお、「女性」は女性（33.7％）が男性（24.0％）よりも約10ポイント、「高齢者」は女性（55.1％）が男性（47.5％）よりも約8ポイント、「子ども」は女性（47.8％）が男性（42.7％）よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「障害者」か「高齢者」が、男女ともに多くの年齢で1位か2位となっているが、男性の30代、女性の30代と40代では「子ども」が1位、女性の20代では「子ども」が2位となっている。また、「インターネットにおける人権問題」は、男性の20代と30代、女性の50代で3位、「女性」は女性の20代で3位となっている。

表Ⅷ 19-2 今後、力を入れるべき人権の分野（性別、性・年齢別—上位5位）

（単位：％）

		n	1位	2位	3位	4位	5位	
【性別】	男性	562	障害者 52.8	高齢者 47.5	子ども 42.7	インターネットにおける人権問題 29.2	女性 24.0	
	女性	575	高齢者 55.1	障害者 52.7	子ども 47.8	女性 33.7	インターネットにおける人権問題 28.9	
【性・年齢別】	男性	20～29歳	49	障害者 55.1	高齢者 32.7	子ども／インターネットにおける人権問題 30.6	女性 24.5	
		30～39歳	79	子ども 57.0	障害者 51.9	インターネットにおける人権問題 40.5	高齢者 35.4	女性 32.9
		40～49歳	74	障害者 52.7	高齢者 44.6	子ども 39.2	インターネットにおける人権問題 28.4	犯罪被害者等 25.7
		50～59歳	113	障害者 58.4	高齢者 46.0	子ども 40.7	インターネットにおける人権問題 31.0	女性 25.7
		60～69歳	130	高齢者／障害者 55.4		子ども 43.8	インターネットにおける人権問題 32.3	犯罪被害者等 26.9
		70歳以上	117	高齢者 56.4	障害者 44.4	子ども 41.0	北朝鮮当局による拉致問題等 30.8	女性 18.8
	女性	20～29歳	45	障害者 71.1	子ども 62.2	女性／高齢者 53.3		インターネットにおける人権問題 46.7
		30～39歳	69	子ども 71.0	障害者 55.1	高齢者 50.7	女性 47.8	犯罪被害者等 34.8
		40～49歳	107	子ども 53.3	障害者 42.1	高齢者 39.3	女性 37.4	インターネットにおける人権問題 32.7
		50～59歳	116	障害者 51.7	高齢者 47.4	インターネットにおける人権問題 44.0	子ども 42.2	女性 29.3
		60～69歳	138	高齢者 69.6	障害者 62.3	子ども 43.5	女性 27.5	北朝鮮当局による拉致問題等 25.4
		70歳以上	100	高齢者 65.0	障害者 42.0	子ども 32.0	女性 25.0	北朝鮮当局による拉致問題等 20.0

職業別でみると、「障害者」か「高齢者」が、農林漁業、商工サービス業、主婦、その他の無職で1位か2位で、「子ども」が3位となっている。一方、事務職・専門技術職と労務職では「子ども」が2位となっており、管理職では「子ども」と「高齢者」が同率で2位となっている。

表Ⅷ 19-3 今後、力を入れるべき人権の分野（職業別—上位5位）

（単位：％）

		n	1位	2位	3位	4位	5位
【職業別】	農林漁業	48	高齢者 50.0	障害者 43.8	子ども 37.5	インターネットにおける人権問題 18.8	女性 14.6
	商工サービス業	117	障害者 57.3	高齢者 51.3	子ども 50.4	インターネットにおける人権問題 33.3	女性 29.9
	自由業	23	障害者 52.2	高齢者 43.5	子ども 34.8	犯罪被害者等／インターネットにおける人権問題／北朝鮮当局による拉致問題等	26.1
	管理職	55	障害者 54.5	子ども／高齢者 41.8		インターネットにおける人権問題 38.2	北朝鮮当局による拉致問題等 21.8
	事務職・専門技術職	255	障害者 59.2	子ども 48.6	高齢者 45.9	インターネットにおける人権問題 36.9	女性 36.5
	労務職	116	障害者 50.9	子ども 44.8	高齢者 43.1	インターネットにおける人権問題 29.3	女性 25.0
	学生	12	障害者 58.3	女性／子ども／外国人／ハンセン病，H I V感染症等疾病に係る人権問題／インターネットにおける人権問題 33.3			
	主婦	268	高齢者 57.5	障害者 50.0	子ども 47.0	女性 28.7	インターネットにおける人権問題 25.7
	その他の無職	238	高齢者 59.7	障害者 49.2	子ども 42.0	女性 28.6	北朝鮮当局による拉致問題等 23.9

（注）自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。